

電力需給に関する検討会合（第1回）概要

日時 : 2011年7月20日 15:30~15:50

場所 : 官邸2階小ホール

出席者 : 枝野 内閣官房長官、海江田 経済産業大臣、細野 節電啓発等担当大臣、片山 総務大臣、江田 法務大臣、高木 文部科学大臣、細川 厚生労働大臣、鹿野 農林水産大臣、大畠 国土交通大臣、与謝野 内閣府特命担当大臣（経済財政政策）、中野 国家公安委員会委員長、自見 内閣府特命担当大臣（金融）、玄葉 国家戦略担当大臣、仙谷 内閣官房副長官、福山 内閣官房副長官、瀧野 内閣官房副長官、園田 内閣府政務官、櫻井 財務副大臣、高橋 外務副大臣、大塚 厚生労働副大臣、山口 復興担当副大臣、近藤 環境副大臣、広田 防衛政務官、望月 内閣官房参与、加藤公一 議員

1. 冒頭発言

➤ 枝野内閣官房長官から、以下のとおり発言。

- 本検討会合の前身の電力需給緊急対策本部において、5月に取りまとめた「夏期の電力需給対策」は、震災で発電所等が被災した東京電力及び東北電力管内の電力需給対策をとりまとめたもの。その後、これらの管内では、供給力の回復・増強や需要家の方々による節電への積極的な取組が進められている。
- しかしながら、その後、西日本においても、予期せぬ発電所の停止などもあり、今夏の電力需給は相当厳しい状況となることが見込まれる。
- そこで、本日は、西日本の電力需給の見通しと必要となる対策を中心に議論していただきたく、お集まりいただいた。
- 政府としても今夏の電力需給対策に遺漏なきを期すため、閣僚等の皆様の更なる御尽力、御協力をお願いしたい。

2. 資料説明

➤ 海江田経済産業大臣から、資料「西日本5社の今夏の需給対策について（案）」に基づき報告。電力需給に関する検討会合として、決定された。

3. その他

➤ 主な発言は以下の通り。

（玄葉 国家戦略大臣）

- 西日本の今夏の対策についてはこれで良いと思う。
- 一方、気になっているのは、関東・東北における使用制限。節電対策により需要は下がっているが、特に被災地を抱える東北においては復興が必要であるところ、雇用も厳しい状況にある。いつまで電力の使用制限を続けるのか、よく考えて頂きたい。

（中野 国家公安委員会委員長）

- いつも思わぬことが突然起きる。こういった会議の場もあるのだから、しっかりと真剣にやっていく必要がある。
- 生産拠点を西に移そうとしたところ西もダメになってしまった、というようなことでは企業の海外シフトが進みかねない。経済産業大臣、その他の大臣におかれては、これは雇用や経済への影響が非常に大きいものであり、将来の展望を見据えた形で対策を検討頂き、公表して頂きたい。

(大畠 国土交通大臣)

- (西地域の)状況については理解しており、国交省としても協力をしたい。一方、鉄道や空港、上下水道は、命を守る、という観点からも重要であり、配慮を頂きたい。
- 電力供給の道筋を示して頂きたい。原発が次々と停止していく状況であり、政治の責任としてこれでよいのかと思う。東京電力福島第一原子力発電所事故の影響は大きく、方針を出したくても出せないということもわかる。しかしながら、EU や世界各国の情勢、IAEA の動向などをよくみながら方針を打ち出さなければ、このままでは電力会社も弱っていく。辛いとは思いますが、政府としての方針を示すべき。

(自見 内閣府特命担当大臣 (金融))

- レーニンとは、共産主義とは電化である、と言ったくらい電力は重要なもの。努力は評価するが政治は結果である。電力の30%を占める原子力をゼロにするのは現実的ではないのではないか。
- どうすれば原発が再起動できるのか、はっきり、ビシビシと道筋を付けて頂きたい。これは泥をかぶってでもやる話。強く言うておく。

(海江田 経済産業大臣)

- 今回は、東京・東北電力管内における電力の使用制限とは別枠の西地域の節電のお願いとなる。
- 東北については配慮をする必要がある。使用制限の期間については、東京電力管内9月22日まで、東北電力管内は9月9日までとなっている。なお、今回、西地域の節電の後ろは東京電力管内と同じく9月22日までとなっている。
- 命を守る、という観点は引き続き重要であり、「こういうところはしっかりと電力を使ってください」といったことを周知徹底していく。
- 自見大臣からありがたいお言葉。みんなで頑張っていきたい。

➤ 最後に枝野内閣官房長官から以下の発言。

- 本年5月に対策を決定して以降、東京電力及び東北電力の管内にとどまらず関西電力管内においても数値目標を設けての節電が必要な状況に至ったことは残念なこと。
- こうした状況の中では、不測の停電を回避することはもとより、計画停電や大口の産業を対象とした電力使用制限といった、より影響の大きな事態を避けるため、需給両面にわたる最大限の努力をすることが重要。
- 本日決定した西日本の今夏の電力需給対策を踏まえ、各府省におかれては、それぞれの所管の分野で節電要請に取り組んでいただくとともに、節電による支障ができる限り小さくなるような知恵もぜひ出していただければありがたい。

以上